



京都府立医科大学附属病院広報誌

かもがわ

vol.
39
2023.6

特 集

—身近な診療科の先進治療—



CONTENTS

▶ 特 集：身近な診療科の先進治療

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 眼科 皮膚科 内分泌・糖尿病・代謝内科

▶ 健康・医療の豆知識

▶ 病院で働く人々：臨床検査技師 中田 成美

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

担当領域

当科では頭頸部領域、すなわち首から上で脳・眼を除くほとんどの部位の診療を行います。

耳、鼻、のどはもとより、口の中（歯を除く）、首、甲状腺、唾液腺、頭蓋底などの疾患を扱います。身近なところでは、中耳炎、副鼻腔炎（いわゆる蓄膿）、扁桃炎などの炎症に対する手術治療、花粉症の治療、おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）などがあります。難しいものには頭頸部がんの治療、高度難聴の治療、その他の難治性疾患があります。

高度難聴の切り札～人工内耳～

先天的な難聴を持つ子どもさんに対する治療は、かつては補聴器しかなく、普通学級で学ぶことはなかなか困難でした。人工内耳という治療法が導入されたのは今から 30 年前ですが、今はこれによって普通学級で学ぶことが可能となっており、多くの子どもたちが他の子どもたちと同じように社会人となって活躍しています。

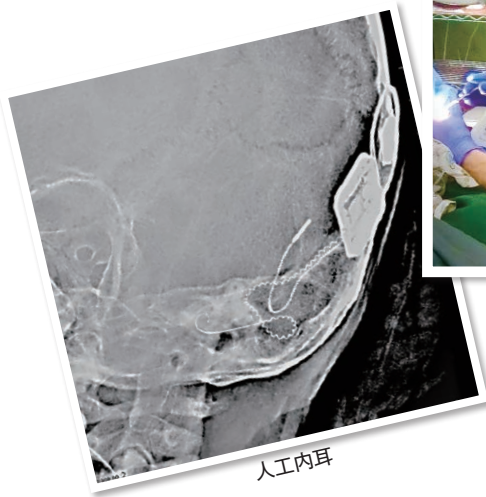
人工内耳の手術はできるだけ早いほうがいいので、手術の時期を逸する事のないように診療を行っています。

頭頸部がんの治療～口腔がんは耳鼻咽喉科・頭頸部外科で見ます～

口腔がんは舌や歯肉にできるがんですが、これも当科が専門的に治療します。頭頸部がんでは発声、嚥下（ものを飲み込む）、呼吸、咀嚼、構音（ことば）などの重要な機能が損なわれますので、これらの機能を極力残すための治療が必要です。最近のがん治療は非常に進化しており、手術に加え、以前はなかった分子標的薬、免疫治療、陽子線治療などを組み合わせることで、重要な機能を残して治療することが可能となっています。

難治性疾患

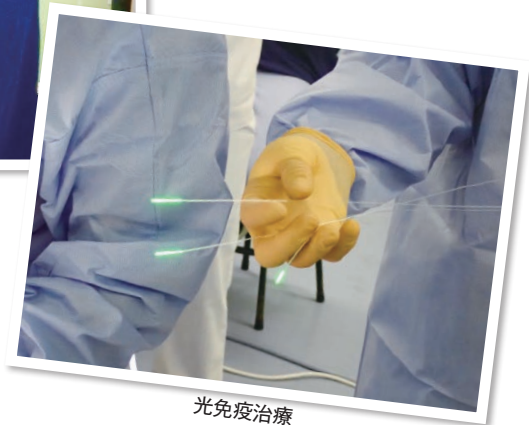
他にも耳、鼻、のどに関わる治療の難しい疾患が多数あります。この領域の症状があれば耳鼻咽喉科・頭頸部外科を早めに受診しましょう。



人工内耳



耳の手術の様子



光免疫治療

眼科

担当領域 ～救急、アイバンクから再生医療まで～

「世界トップ医療を地域へ」をモットーに、アイバンク、眼科救急、よくある眼疾患から希少難治疾患、再生医療まで、さまざまな眼疾患に対応し、眼科医療と医学への貢献を目指しています。

アイバンク

人生を終えた後、さらに他人の役に立つことができるのが角膜移植、臓器移植のドナーになることです。当アイバンクでは、ドナーのご意思をお持ちの方、ご遺族さま、眼球提供にご協力くださる病院の方々との繋がりを大切に、アイバンク活動を行っております。関心のある方は遠慮なく、ご連絡ください。

希少・難治疾患

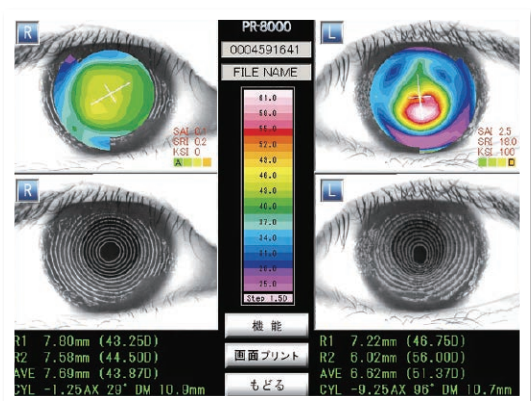
円錐角膜：思春期に角膜の変形をきたす原因不明の疾患で、眼鏡をかけても視力が出ません。ハードコンタクトレンズを調整し、定期的に角膜形状をチェックします。

眼科領域の悪性腫瘍：結膜扁平上皮がん、基底細胞がん、網膜芽細胞腫など。手術による腫瘍切除に加えて、視機能障害をきたさないように角膜やまぶたを再建します。放射線治療を行うこともあります。

再生医療

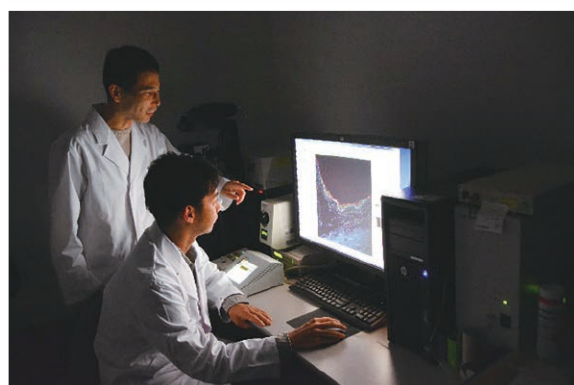
当科で開発した培養自家口腔粘膜上皮シート移植が国に承認され、2023年2月より保険での治療を開始しました。Stevens-Johnson 症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷など、黒目（角膜）の上を白目（結膜）が覆って高度に視力低下をきたした方が適応となります。患者さんご自身の口腔粘膜から作成した粘膜上皮シートを目に移植します。また、水疱性角膜症に対する新たな治療として、培養角膜内皮細胞注入療法の実用化を進めています。

京都府内外から多くの患者さんをご紹介いただいております。かかりつけ医との病診連携、あるいは病病連携（地域の病院との連携）を目指しており、ご協力をお願い申し上げます。



角膜形状解析

角膜の形状をカラーマップで示しています。左（L）が円錐角膜の写真です。



研究室の風景

患者さんの同意のもと、手術等で不要になった組織を医学研究に用いています。

皮膚科

担当領域

皮膚科は、皮膚や粘膜に現れる多岐にわたる疾患を対象としていますが、今回はアレルギー性皮膚疾患と皮膚がんの診療についてご紹介します。

アレルギー性皮膚疾患の診療

アトピー性皮膚炎に対しては、患者さんごとに悪化因子を把握して予後を見通した上で治療計画を立て、診療ガイドラインに沿った薬物療法や生活指導、環境整備などを行っています。経過が長い疾患ですが、患者さんが通院しやすい診療所と連携するなど、適切な治療で症状がコントロールされた状態を維持することを目指しています。外来通院による治療でなかなか軽快しない場合や急に症状が悪化した際の入院治療も積極的に行っています。最近では、抗体製剤の注射薬やヤヌスキナーゼ阻害内服薬などの全身療法を使用できるようになり、これまでの治療で軽快しなかった患者さんにとっても治療の幅が広がりました。また新規治療薬の治験も行っています。

食物アレルギー、ラテックスアレルギー、薬疹（薬物アレルギー）や接触皮膚炎などのアレルギーが関与する皮膚疾患に対しては、原因を検索するためのプリックテスト、パッチテスト、チャレンジテストなどの検査を精力的に行っています。

皮膚がんの診療

皮膚悪性腫瘍の患者数は年々増加しています。腫瘍外来では、皮膚悪性腫瘍、中でも悪性黒色腫（メラノーマ）、乳房外パジェット病、血管肉腫、メルケル細胞癌といった、より専門的な治療を必要とする疾患の治療に積極的に取り組んでいます。手術による治療、放射線療法、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬など全身療法を組み合わせ、最新のエビデンスに基づいて一人ひとりの患者さんにベストの治療を目指す、皮膚悪性腫瘍診療施設です。



手術の様子



アレルギーカンファレンス

内分泌・糖尿病・代謝内科

担当領域

当科は、糖尿病を中心に肥満症・脂質異常症・高尿酸血症などの代謝疾患、および甲状腺・副腎・下垂体・副甲状腺などに由来する内分泌疾患（いわゆるホルモン異常による病気）の診療を行っています。

糖尿病診療について

糖尿病診療では、細小血管症（網膜症・腎症・神経障害）の発症・進展阻止を目標とした血糖コントロールのみならず、大血管症（冠動脈疾患、脳梗塞、足壊疽など）の発症・進展阻止を念頭においた広い視野に立った糖尿病治療を行っています。糖尿病の診療は薬物療法ばかりでなく、食事・運動療法を柱とした治療支援が重要です。その中で看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師などのメディカルスタッフが重要な役割を担っています。2011年に京都府立医科大学附属病院糖尿病診療チーム「Team FUTABA」を立ち上げ、糖尿病のある人を中心とし職種間の繋がりを密にしたチーム医療による診療を行っています。また、最近では、リアルタイムでグルコース濃度を把握できる測定器、インスリンを持続的に投与できるポンプ、さらに両者を組み合わせた機能を持つ機器などが充実してきており、患者さんそれぞれの病態や生活環境を考慮した診療を提供しています。

内分泌診療について

内分泌疾患は症状が非特異的かつ多彩であり、普段の診療においていかに内分泌疾患を疑うかが重要です。最近では、がんの治療に用いられる免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害（甲状腺異常・糖尿病・副腎不全）が増加しています。他の診療科と連携して迅速に対応するよう努めています。



カンファレンス



リアルタイムでグルコース濃度を把握できる測定器

臨床検査部 連載企画
vol. 29

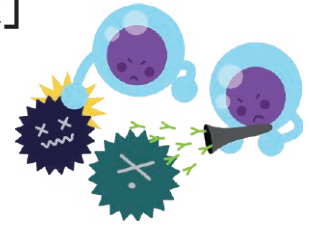
臨床検査の豆知識

「白血球の種類とアレルギー反応」

白血球とは？

血液内に存在する細胞の1つで感染症などに対する生体防御に関与しています。

白血球は主に以下の種類に分類されています。



名称	好中球	好酸球	好塩基球	リンパ球	単球
検査項目名	Neut	Eos	Bas	Lymph	Mono
形態					
主な役割	主に細菌や真菌を殺菌処理します。	寄生虫を処理します。アレルギー反応に関与しています。	アレルギー反応に関与しています。アナフィラキシーを引き起こします。	主にウイルスを処理します。	異物を取り込み処理します。
成人白血球分類平均	39.8 ~ 70.5%	0.6 ~ 5.4%	0.3 ~ 1.4%	23.1 ~ 49.9%	4.3 ~ 10.0%

薬剤部 連載企画
vol. 34

くすりの豆知識

「アレルギーのお薬「抗ヒスタミン薬」と使用上の注意点」

抗アレルギー薬は、アレルギーの症状（鼻水やくしゃみ、目のかゆみなど）を和らげるために使われるお薬で、その代表的なお薬に抗ヒスタミン薬があります。抗ヒスタミン薬の主な副作用としては、眠気や意識がぼんやりする、口の渇き、めまいなどがあります。特に「眠気や意識がぼんやりする」ことは、集中力や判断力、作業効率の低下を招き、重大な事故につながるおそれがあります。そのため抗ヒスタミン薬を服用する際には、自動車の運転、機械の操作、高所での作業に注意が必要です。抗ヒスタミン薬のなかには、「自動車運転や危険を伴う機械作業」について特に制限されていないものもありますので、服用前には必ず医師や薬剤師に相談しましょう。



抗ヒスタミン薬の「自動車運転や危険を伴う機械作業の制限」

制限の種類	該当する代表的な薬の名称（一般名）
禁止されている	アレロック®（オロパタジン）、ザイザル®（レボセチリジン）、ジルテック®（セチリジン）、ルバフィン®（ルバタジン）
注意する	アレジオン®（エピナスチン）、エバステル®（エバスチン）、タリオン®（ベボタスチンベシル）
特に制限されていない	アレグラ®（フェキソフェナジン）、クラリチン®（ロラタジン）、デザレックス®（デスロラタジン）、ピラノア®（ピラスチン）、

引用：主な抗ヒスタミン薬と眠気、自動車運転について（鼻アレルギー診療ガイドライン）



「細かなところもしっかり見えます」

耳鼻科や眼科などの手術は非常に小さな部位に対して行われる時もありますが、そのような時に活躍する医療機器が手術顕微鏡です。

手術顕微鏡は一般的なイメージの顕微鏡とは大きく異なり、医療機器の中でも大型のものとなります。また、手術部位を正確に、また質感なども再現するため、クリアな画像や立体感などが求められます。

当院では通常の手術顕微鏡（右図下）に加えて、医師が直接覗き込まないために任意の角度から手術部位にアプローチできる機器（右図上）も導入しています。最新の手術顕微鏡は高精細かつ高倍率の観察を可能とし、より繊細な手術の手助けをしています。

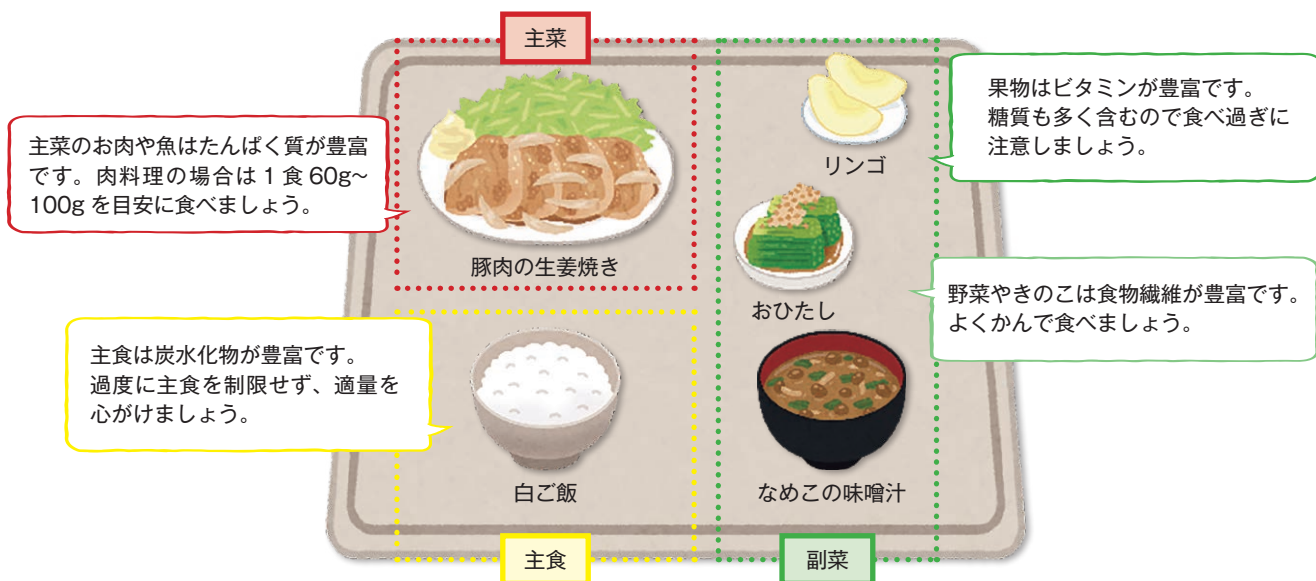


（画像提供/オリンパスマーケティング株式会社）



「糖尿病の食事療法：バランスのよい食事について」

糖尿病の治療には食事療法が効果的です。食事療法と聞くと甘いものや揚げ物を全く食べてはいけないといった、厳しい食事制限のことだと思いませんか？実は糖尿病の食事療法で大切なことは食事に厳しい制限をかけることなく、食事量に気を付けて主食・主菜・副菜をそろえたバランスのよい食事をとることなのです。様々な食品を使うことでまんべんなく栄養素が摂れるため、1日20～30品目の食品を食べることを目指しましょう！



※高血圧の方は食塩量にも注意して、お味噌汁は控えるなどの工夫をしましょう。
1日の食事は朝食、昼食、夕食と規則正しい時間で食べるようにするとよいです。



京都府立医科大学
附属病院

病院長 佐和 貞治

～新病院長就任のご挨拶～ 「安全、安心な医療を皆様へ」

京都府立医科大学附属病院長としてご挨拶申し上げます。

さて、2020年春に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、3年以上に渡りその脅威が継続してきました。当院においても、地域医療機関と協力して重症患者さんへの治療を中心に対応してきました。一方で、その間も必要な通常医療、特に急を要する様々な疾患に対する治療においても縮小せずに対応してきました。当院は厚生労働省指定の「がん診療連携拠点病院」、「小児がん拠点病院」であり、「永守記念最先端がん治療研究センター」では陽子線治療等のがん治療の先進医療を行っています。

また2021年8月には「京都府総合周産期母子医療センター」も開設に至りました。

他にも、ゲノム診断、分子標的治療や、内視鏡・血管カテーテル手術、ロボット支援下手術などを取り入れ、正確な診断に基づく安心安全な治療の提供に努めています。

附属病院職員一同が連携を取りながら、患者さんのニーズに応えるべく、明治5年の開院以来150年来の当院の理念「世界トップレベルの医療を地域へ」を掲げて努力してまいります。

病院で働く人々 case 4

めざせエコーマスター

医療技術部臨床検査技術課 臨床検査技師

なかた なるみ
中田 成美

修行の身

「エコーをしてみたかったんです」

はにかみながらこう切り出した中田さんは、生理検査（心臓・腹部・血管のエコーや脳波、肺機能の検査）を担当している入職4年目の臨床検査技師。

検査の中でも特にエコーをやりたくてこの職を選んだという中田さんですが、心電図や脳波などと比べ、エコー検査は一人で結果が返せるようになるまで時間がかかるそうで、血管、腹部と始めて、今は心エコーの修行の身。

患者さんと直接会話の出来る機会が多い今のお仕事がとても好きなのだと、教えてくれました。

明日のために

日中は生理検査を担当している中田さんですが、当直業務の時は血液検査のお仕事も担当されており、入職当初は生理検査、血液検査と全然違う業務を同時並行で覚えたり、病院内で飛び交う聞きなれない略語に慣れたりするのに特に苦労したとのこと。

業務に慣れた今でも、エコーの検査は患者さん一人ひとりに合わせて、必要な箇所を必要な分だけ描写できるように（映し出せるように）、あらかじめどのような患者さんの検査が入っているのかを確認し、検査の予習を行っているそうで、毎日が勉強の連続です。それでも、検査をきっちりすることで患者さんの負担軽減につなげることが出来ることにやりがいを感じるそうで、予習は大変だけれども、楽しくもあるのだとか。

大学病院である当院には、希少な疾患の患者さんがいらっしゃることもあり、そんな時のために学会に参加したり、自宅で勉強したりと、日々余念のない様子がうかがえました。

一步一步

「生理検査部門で担当している業務の中では、今研修を受けている心エコーが最後になります。もう少ししたら研修終了なので、そのあとは学会の資格を取れるように、それに向けて勉強していきたいと考えています。筆記と、症例件数をクリアしないといけないので、まだまだこれからなんですけど。」

控えめに、けれど熱い思いを込めて今後の目標を話してくれた中田さん。エコーマスター目指して、今日も旅は続きます。



Monthly Schedule

第1週	心エコー
第2週	腹部エコー
第3週	心・血管エコー
第4週	心電図・肺機能

